

2023年11月7日

上場会社名 アクシアル リテイリング株式会社  
コード番号 8255 URL <https://www.axial-r.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長・CEO (氏名) 原 和彦

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長・CFO (氏名) 山岸 豊後 TEL 0258-66-6711

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 2023年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	132,603	5.5	6,206	19.1	6,331	16.3	4,256	18.8
2023年3月期第2四半期	125,719	2.5	5,212	8.9	5,444	8.3	3,583	9.6

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 4,338百万円 (15.7%) 2023年3月期第2四半期 3,750百万円 (1.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	186.12	
2023年3月期第2四半期	155.53	

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	127,271	80,277	63.1	3,546.87
2023年3月期	122,756	78,705	64.1	3,415.81

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 80,277百万円 2023年3月期 78,705百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		25.00		55.00	80.00
2024年3月期		30.00			
2024年3月期(予想)				55.00	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当第2四半期末の配当につきましては、この四半期決算短信発表日現在において正式に決定したものではありません。  
正式に決定した時点で、あらためて剰余金の配当に関するお知らせを公表いたします。

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	263,000	3.2	10,900	4.4	11,000	0.5	7,000	10.1	308.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	23,388,039 株	2023年3月期	23,388,039 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	754,755 株	2023年3月期	346,519 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	22,866,997 株	2023年3月期2Q	23,041,702 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、この四半期決算短信【添付資料】9ページ「1 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

目 次

	頁
目次	1
1 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	7
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	9
2 四半期連結財務諸表及び主な注記	11
(1) 四半期連結貸借対照表	11
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	13
(四半期連結損益計算書)	13
(四半期連結包括利益計算書)	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	15
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	16
(継続企業の前提に関する事項)	16
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	16
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	16
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	16
(会計方針の変更)	16
(会計上の見積りの変更)	16
(追加情報)	16
(セグメント情報)	17
3 補足情報	19
(1) 生産、受注及び販売の状況	19

文中における将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。当該将来に関する事項は、取締役会等の社内の会議体で合理的な根拠に基づく適切な検討を経たものであり、検討にあたっては、当社グループの事業所ごとに事業を取り巻く環境、事業計画、その他関連する諸条件を総合的に勘案して判断しております。

なお、将来に関する事項につきましては、不確実性を有しており、将来生じる結果と異なる可能性がありますので、記載しております事項に対する判断は、以下記載事項及び本項目以外の記載内容も合わせて慎重に行われる必要があります。

当社グループは、スーパーマーケットの経営を事業主体としており、店舗「原信」「ナルス」「フレッセイ」を各地に出店しております。

## 1 当四半期決算に関する定性的情報

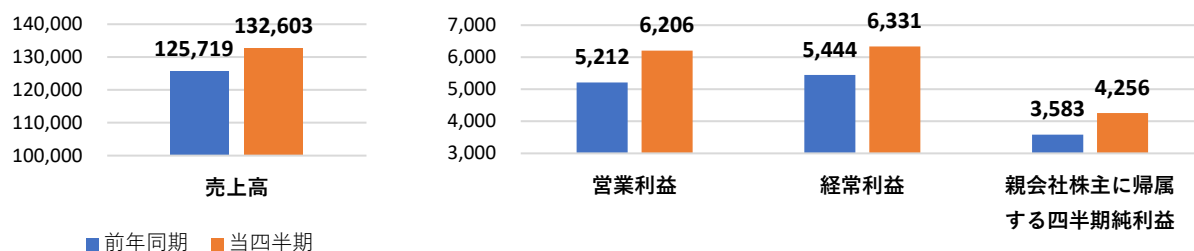
### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い人流や経済活動が回復に向かっており、景気拡張局面に入ったものの、いまだ力強さに欠けているものと思われま

す。このような状況において、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結経営成績は、売上高が1,326億3百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益が62億6百万円（前年同期比19.1%増）、経常利益が63億31百万円（前年同期比16.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が42億56百万円（前年同期比18.8%増）となりました。

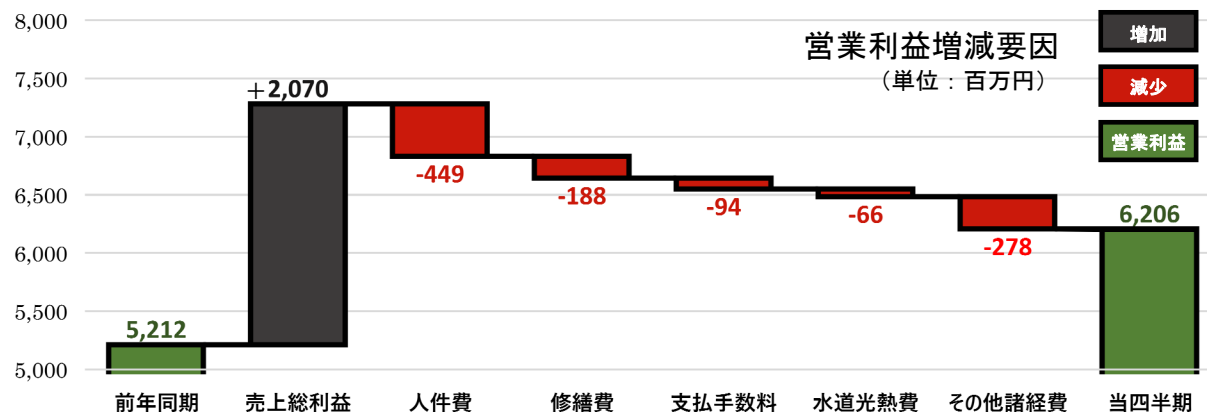
また、1株当たり四半期純利益は186円12銭となりました。

#### 損益増減（単位：百万円）



売上高につきましては、社会経済活動の再開や商品販売価格改定が進んだことに加え、一部生活必需品の価格を据え置いた政策がお客様から評価をいただいたため、前年同期に比べ増加いたしました。

営業利益につきましては、売上高の伸長に加え、以前より継続して取り組んでいる利益確保及びコストカット施策が効果を発揮し前年同期に比べ増加いたしました。



<売上総利益>売上高増加、売上総利益率の増加

<人件費>前向きな賃上げの実施、新規採用、社会保険料負担の増加

<修繕費>店舗改装、酷暑

<支払手数料>キャッシュレス決済の増加

<水道光熱費>単価上昇

(アクシアル発足10周年と機構改革)

当社グループは、本年10月にアクシアル リテイリングとしての体制発足から10年を迎えました。

これにあたり、持株会社である当社と各事業会社の役割分担を明確にしつつ、一層の成長に向かって当社グループのシナジー効果を発揮するため、機構改革を行いました。

その内容は次のとおりであります。

<アクシアル リテイリングのガバナンス強化>

アクシアル リテイリングの社長は、事業会社である原信、ナルス、原信ナルスオペレーションサービスの社長を兼務しておりましたが、アクシアル リテイリングの社長に専念するため、事業会社の社長兼務を解き、アクシアル リテイリング代表取締役社長・CEOに就任いたしました。

アクシアル リテイリング社長は、当社グループの戦略立案、実現に集中し、各事業会社の政策実行を監督して、当社グループ全体がより一体感を持ってマスマリットの創出を図る体制にいたしました。

<C x O (最高責任者) の任命>

当社グループ全体の経営政策、財務政策、情報システム政策、人事政策を統括するため、それぞれCEO (最高経営責任者)、CFO (最高財務責任者)、CIO (最高情報システム責任者)、CHRO (最高人事責任者)を任命し、各機能を統括させることといたしました。

<その他>

新店等の建設・改修修繕、TQM (Total Quality Management : 総合的品質管理)、CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任)、広報及び内部統制の各機能を再編、強化いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各セグメント別の経営成績を示すと、次のとおりであります。なお、各セグメントの経営成績につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

① スーパーマーケット

(全般)

当第2四半期連結累計期間におきましては、「“原点回帰”— マスマリットの創出へ、執念を持って取り組む —」を年度方針として掲げ、再整備 (畑を耕し直し)、開拓・開発 (新しい種をまく)、新しい価値観への対応 (これからの時代を見据えて) のための諸施策の展開を進めております。

当第2四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の経営成績は、売上高が1,322億62百万円 (前年同期比5.5%増)、営業利益が59億36百万円 (前年同期比20.9%増) となりました。

当第2四半期連結累計期間における業績の内容、取組みに関する事項は、以下のとおりであります。

(販売指標等に関する動向)

当第2四半期連結累計期間の販売指標等は以下のとおりであります。

項目		当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	前年同期比
期末店舗数	グループ合計	130店舗	増減なし
	内訳 (原信)	67店舗	増減なし
	(ナルス)	13店舗	増減なし
	(フレッセイ)	50店舗	増減なし
店舗売上高	全店	130,785百万円	105.5%
	既存店	126,408百万円	105.0%
来店客数	全店	5,513万人	102.4%
	既存店	5,325万人	101.8%
客単価	全店	2,372円	103.1%
	既存店	2,374円	103.1%
買上点数	全店	11.62点	97.6%
	既存店	11.63点	97.7%
一品単価	全店	204円	105.6%
	既存店	204円	105.6%



- (注) 1 記載数値は、「収益認識に関する会計基準」等に基づく調整前の数値で記載しております。  
 2 店舗数は、当第2四半期連結会計期間末現在におけるスーパーマーケットの設置店舗数であり、他業態の設置店舗数(100円ショップ2店舗)は含みません。  
 3 店舗売上高、来店客数、客単価、買上点数、一品単価は、スーパーマーケット店舗のみの数値であります。  
 4 客単価は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった金額の平均であります。  
 5 買上点数は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった商品数の平均であります。  
 6 一品単価は、お客様がお買い上げになった商品の一品当たり金額の平均であります。  
 7 既存店は、店舗開設より満13か月以上を経過した店舗であります。

<来店客数>

値上げ基調の中、プライベート・ブランド商品で値ごろ感を維持していること、惣菜などがおいしさで支持を受けていることに加え、人流の回復で来店頻度が高まったため、来店客数は、既存店で前年同期に比べ1.8%増加し、全店では前年同期に比べ2.4%増加いたしました。

<買上点数>

物価高騰でお客様の節約志向が高まったため、買上点数は、既存店で前年同期に比べ2.3%減少し、全店では前年同期に比べ2.4%減少いたしました。

<一品単価>

生鮮相場が前年同期に比べ高く推移したことに加え、商品・原材料等の仕入価格上昇に伴う販売価格改定により、一品単価は、既存店で前年同期に比べ5.6%増加し、全店では前年同期に比べ5.6%増加いたしました。

<客単価>

買上点数は前年同期を下回りましたが、一品単価が前年同期を上回ったため、客単価は、既存店で前年同期に比べ3.1%増加し、全店では前年同期に比べ3.1%増加いたしました。

<商品販売における売上総利益>

お客様にとってあるべき売場を科学的にとらえて改善を図り、売場全体と売上総利益の最大化を実現するインスタ・マーチャндаイジングの取組みを前連結会計年度に引き続き強化しており、併せて、無駄な値下げ・廃棄の削減や得られるはずの利益を適切に確保するためのロス・チャンスロス分析を強化し、これらを当社グループの経営の根幹であるTQM(トータル・クオリティ・マネジメント)の手法で進めました。

この結果、各売場、各店舗、各部署のマネジメントレベルが向上したことにより、値上げ基調が進む状況においても、商品販売における売上総利益率は前年同期と同様の28.8%となり、商品販売における売上総利益は前年同期に比べ5.8%増加いたしました。

(出店・退店等)

出店につきましては、フレッセイ境町店(7月、群馬県伊勢崎市、売場面積2,133㎡)を新設いたしました。また、原信燕店(9月、新潟県燕市、売場面積2,136㎡)を移転新設いたしました。

改装につきましては、原信紫竹山店(4月、新潟県新潟市中央区、売場面積2,475㎡)、フレッセイ新保店(4月、群馬県高崎市、売場面積1,999㎡)について実施いたしました。

退店につきましては、(旧)原信燕店(9月、新潟県燕市、売場面積2,000㎡)について、移転に伴い閉鎖いたしました。

【フレッセイ境町店】



【原信燕店：中央写真は、原信の丸山社長と近藤店長】



【原信紫竹山店】



【フレッシュイ新保店】



(エシカルな新ブランドの立ち上げ)



おいしさと、やさしさを。  
Hana-well

It's just like flowers are blooming!

Smiles Bring More Smiles

Let smiles bloom like flowers for the people, the world, and the future.

近年、世界が直面する様々な課題に対し、持続可能な社会の実現を目指す取組みの必要性が周知され、地球環境や社会問題における課題を考慮した消費活動、いわゆるエシカル (ethical) 消費が高まりを見せております。

当社グループでは、これまで事業活動を通じて社会に貢献する様々な取組みを行ってまいりましたが、社会課題への対応と事業の一体化を一層進める取組みとして、このたび、エシカル商品の新ブランド「Hana-well」(ハナウェル) を立ち上げました。このブランド名には、次のような想いを込めています。

～～～ Hana-well ～～～

人と地球が「幸せ」に、そして「健やか」に互いを認め合いながら、そして手を取りながら

「今」と「未来」に花が咲くように、の意味を込め

「花 Well-being」を略して名付けました。

花は「自然・成長・笑顔」を象徴し

Wellは「well-being(総合的な幸福感)」を意味します。

「幸せの花を植えていく」その想いを込めたオリジナルブランドです。

###

また、ロゴマークは、障がいをお持ちでありながらアーティストとしてご活躍されている田中翠恵様に制作していただいたものであり、次のような作者様の想いが込められています。

～～～ ロゴマーク ～～～

やさしい手（人）がつながって、健康・福祉・幸福がある。

やさしい手（人）が花を植え、地球に笑顔をもたらす。

わたしは、やさしい手の中に、

花ことばが幸福の意味を持つ花々・動物・魚・野菜・果物で

「はーと」を表現しました。

「はーと」には、心・命・愛・地球の意味を込めました。

###

このブランドは、独自に開発した商品を通じ、「地球と人」の「今と未来」に向け私たちが発信・提供・提案する取組みです。やさしさを「地球」「健康」「地域」「人」「未来」の5つの軸と15のテーマで取り組み、おいしくご提供することで、お客様の暮らしをはじめ、ウェルビーイングな社会の実現に貢献してまいりたいと考えております。

当第2四半期連結会計期間末においては、80品目を販売しており、各種媒体を活用したブランドの認知向上やキャンペーンの実施を行い、お客様に共感してお使いいただけるよう当社グループの想いを広くお伝えしております。



## ② その他

### (全般)

当第2四半期連結累計期間におけるその他の事業の経営成績は、売上高が29億31百万円（前年同期比13.4%増）、営業利益が2億88百万円（前年同期比8.3%増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における業績の内容、取組みに関する事項は、以下のとおりであります。

### (情報処理事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、情報機器の販売が前年同期を上回ったため増加いたしました。また、外部顧客向けの販売は、納期に至った受注案件が前年同期を上回ったため増加いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ28.7%増加し、営業利益は、前年同期に比べ35.0%増加いたしました。

### (印刷事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、各種印刷物について電子媒体への移行が進んだ影響で若干減少いたしました。一方、外部顧客向けの販売は、顧客の事業活動等について新型コロナウイルス環境下における低迷からの回復が見られ、印刷物や各種イベント関連の受注が増え増加いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ0.6%増加いたしました。営業利益は、原料原価の高騰で製造原価が増加したことから前年同期に比べ55.8%減少いたしました。

### (清掃事業)

主力であるスーパーマーケット事業向けの販売は、安定した受注を受け前年同期に比べ増加いたしました。また、外部顧客向けの販売は、清掃関連の受注が前年同期並みでありましたがリサイクル資材の販売単価相場により前年同期に比べ若干減少いたしました。この結果、売上高は、前年同期に比べ4.5%増加いたしました。営業利益は、人員体制の見直しによる人件費増加で前年同期に比べ4.1%減少いたしました。



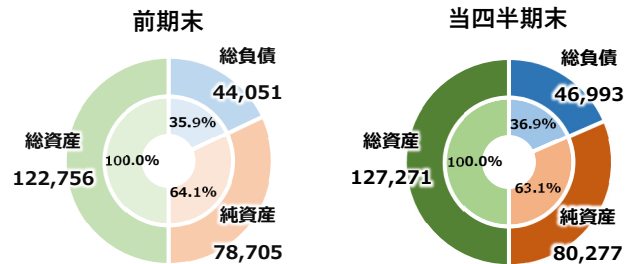
(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

当第2四半期連結会計期間末における連結財政状態は、総資産が1,272億71百万円（前連結会計年度末比45億14百万円増）、総負債が469億93百万円（前連結会計年度末比29億42百万円増）、純資産が802億77百万円（前連結会計年度末比15億71百万円増）となりました。

また、1株当たり純資産額は3,546円87銭となり、当第2四半期連結会計期間末におけるPBR（株価純資産倍率）は1.06倍となりました。

貸借増減（単位：百万円）



当第2四半期連結会計期間末における連結財政状態全般の各項目の内容を示すと、次のとおりであります。

(総資産)

流動資産は354億29百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億25百万円増加いたしました。これは主に、曜日周りの関係により、現金及び預金が4億42百万円、売掛金が2億45百万円、並びに、棚卸資産が3億69百万円、前連結会計年度末に比べそれぞれ増加したことによるものであります。なお、流動資産の構成比は、前連結会計年度末に比べ0.6ポイント減少し27.8%となりました。

固定資産は918億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ38億89百万円増加いたしました。その内容は次のとおりであり、固定資産の構成比は、前連結会計年度末に比べ0.6ポイント増加し72.2%となりました。

有形固定資産は742億89百万円となり、前連結会計年度末に比べ36億64百万円増加いたしました。これは主に、建物及び構築物が、店舗の新規出店及び改装により前連結会計年度末に比べ12億1百万円増加したこと、並びに、建設仮勘定が、今後の新規出店、本社移転及び食品工場増強に係る設備投資により前連結会計年度末に比べ21億35百万円増加したことによるものであります。

無形固定資産は27億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ79百万円増加いたしました。これは主に、ソフトウェア仮勘定が、新規情報システムへの投資により前連結会計年度末に比べ1億7百万円増加したことによるものであります。

投資その他の資産は148億45百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億44百万円増加いたしました。これは主に、敷金及び保証金が、新規出店に関連して前連結会計年度末に比べ1億44百万円増加したこと、並びに、投資有価証券が、時価総額の上昇により前連結会計年度末に比べ1億34百万円増加したことによるものであります。

(総負債)

流動負債は321億77百万円となり、前連結会計年度末に比べ29億14百万円増加いたしました。これは主に、買掛金が、商品仕入高の増加及び曜日周りの関係により前連結会計年度末に比べ33億25百万円増加したことによるものであります。なお、流動負債の構成比は、前連結会計年度末に比べ1.5ポイント増加し25.3%となりました。

固定負債は148億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ28百万円増加いたしました。これは主に、店舗の新規出店の関係で、資産除去債務が85百万円、長期預り保証金が78百万円、前連結会計年度末に比べそれぞれ増加したことによるものであります。なお、固定負債の構成比は、前連結会計年度末に比べ0.5ポイント減少し11.6%となりました。

(純資産)

株主資本は786億48百万円となり、前連結会計年度末に比べ14億88百万円増加いたしました。増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益42億56百万円であり、減少要因は、剰余金の配当12億67百万円及び自己株式の取得14億99百万円であります。なお、取締役会決議に基づく自己株式の取得（約定日基準による取得期間：2023年6月14日から2023年12月31日、取得しうる株式の総数上限500,000株、株式の取得価額の総額上限15億円）を実施し、2023年8月2日の約定をもって当該取得枠の買付を終了しており、当該決議に基づき総数408,200株、総額14億99百万円の自己株式を取得いたしました。

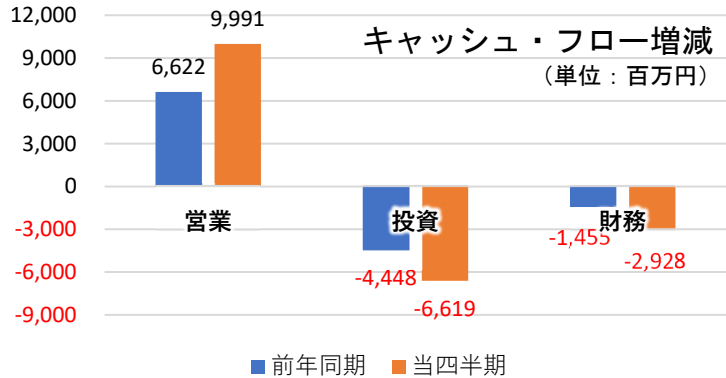
その他の包括利益累計額は16億29百万円となり、前連結会計年度末に比べ82百万円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が、保有する投資有価証券の時価総額の増加により前連結会計年度末に比べ1億11百万円増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ1.0ポイント減少し63.1%となりました。

② キャッシュ・フロー

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」といいます。）は、199億82百万円（前連結会計年度末比8億14百万円増）となりました。

当第2四半期連結累計期間における連結キャッシュ・フロー全般の各項目の内容を示すと、次のとおりであります。



(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は99億91百万円となり、前年同期に比べ33億69百万円増加（前年同期比50.9%増）いたしました。これは主に、経常利益が前年同期に比べ8億86百万円増加したこと、並びに、仕入債務の増減額が、商品仕入高の増加及び曜日周りの関係により前年同期に比べ22億79百万円増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は66億19百万円となり、前年同期に比べ21億71百万円増加（前年同期比48.8%増）いたしました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が、今後の出店、本社移転及び食品工場増強等に係る設備投資により前年同期に比べ16億99百万円増加（前年同期比37.7%増）したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は29億28百万円となり、前年同期に比べ14億73百万円増加（前年同期比101.2%増）いたしました。これは主に、自己株式の取得による支出が、取締役会決議による取得を実行したため前年同期に比べ15億9百万円増加（前年同期比大幅増加）したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

【業績予想の修正】

最近の業績動向等を踏まえ、2023年8月1日付で、2023年5月2日に公表いたしました2024年3月期第2四半期（累計）並びに2024年3月期通期の連結業績予想につきまして、下記のとおり上方修正しております。

その概要は、次のとおりです。

(第2四半期連結累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	126,500	4,300	4,300	3,000	130.20
今回修正予想 (B)	130,000	5,400	5,500	3,700	161.91
増減額 (B)-(A)	+3,500	+1,100	+1,200	+700	
増減率 (%)	+2.8	+25.6	+27.9	+23.3	
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期第2四半期)	125,719	5,212	5,444	3,583	155.53

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	256,000	8,900	9,000	6,000	260.40
今回修正予想 (B)	263,000	10,900	11,000	7,000	308.42
増減額 (B)-(A)	+7,000	+2,000	+2,000	+1,000	
増減率 (%)	+2.7	+22.5	+22.2	+16.7	
(ご参考) 前期実績 (2023年3月期通期)	254,966	10,443	10,940	6,356	275.85

(修正の理由)

売上高につきましては、人流回復や原料原価高騰による商品販売価格改定が進んだことに加え、お客様の消費が想定以上に力強い動向を示しており、当初の業績予想数値を上回る見込みとなりました。

また、各利益につきましては、売上高の伸長に加え、前連結会計年度より取り組んでいる利益確保及びコストカット施策が効果を発揮しており、当初の業績予想数値を上回る見込みとなりました。

(売上高予想の前提となる店舗売上高の見通し)

業績予想の基本となる店舗売上高については、次のとおり見込んでおります。

項目	前連結会計年度対比 (2023年3月期対比)	
	全店 (%)	既存店 (%)
第2四半期 (2024年3月期第2四半期)	104.0	103.6
通期 (2024年3月期通期)	103.8	102.6

【修正後の第2四半期の業績予想に対する第2四半期の実績について】

なお、修正後の第2四半期連結累計期間の業績予想に対する当第2四半期連結累計期間の実績は以下のとおりであります。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
第2四半期予想 (A)	130,000	5,400	5,500	3,700	161.91
第2四半期実績 (B)	132,603	6,206	6,331	4,256	186.12
予想比(%) (B)/(A)	102.0	114.9	115.1	115.0	115.0

売上高が当初見込値を上回った要因につきましては、以下のとおりであると考えております。

- ・人流回復や商品販売価格改定が進んだこと。
- ・一部生活必需品の価格を据え置いた政策がお客様から評価をいただいたこと。
- ・当社グループの規模を活かした商品調達や品ぞろえの優位性が確保できたこと。
- ・当社ならではの名物商品やプライベート・ブランド商品の開発、各種サービスの充実により、当社グループ店舗のファンとなっただけのお客様が増えたこと。
- ・営業全般における週間管理の仕組みが良好に運用され、売場管理や不要なロス削減が維持されていること。
- ・以上により、既存店売上高が堅調であったこと。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が当初の見込値を上回った要因につきましては、以下のとおりであると考えております。

- ・売上高の増加に加え、継続的に取り組んでいる利益確保の施策が効果を発揮し、売上総利益率を高い水準で維持できたこと。
- ・諸費用について、契約内容や調達先の見直し、適正利用の継続的取組みにより、削減を図ることができたこと。

【注意事項】

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は既知及び未知のリスク、不確実性及びその他様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、当社グループが認識している事業等のリスクにつきましては、当社の有価証券報告書をご参照ください。

2 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	19,541	19,984
受取手形及び売掛金	5,032	5,278
リース投資資産	540	495
商品及び製品	5,383	5,746
仕掛品	34	27
原材料及び貯蔵品	384	398
未収還付法人税等	356	144
その他	3,533	3,363
貸倒引当金	△3	△8
流動資産合計	34,804	35,429
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	40,685	41,887
機械装置及び運搬具（純額）	600	627
土地	20,864	20,862
リース資産（純額）	1,827	1,732
建設仮勘定	3,890	6,026
その他（純額）	2,754	3,152
有形固定資産合計	70,624	74,289
無形固定資産		
のれん	2	2
その他	2,624	2,704
無形固定資産合計	2,626	2,706
投資その他の資産		
投資有価証券	3,201	3,336
長期貸付金	5	3
退職給付に係る資産	169	139
繰延税金資産	3,699	3,594
敷金及び保証金	6,803	6,947
その他	842	846
貸倒引当金	△20	△20
投資その他の資産合計	14,701	14,845
固定資産合計	87,952	91,841
資産合計	122,756	127,271

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	16,046	19,371
契約負債	673	683
リース債務	301	283
未払法人税等	2,237	2,175
役員賞与引当金	274	168
賞与引当金	2,181	1,943
その他	7,546	7,551
流動負債合計	29,262	32,177
固定負債		
リース債務	2,547	2,418
資産除去債務	6,063	6,148
長期預り保証金	6,007	6,085
退職給付に係る負債	2	2
その他	167	161
固定負債合計	14,788	14,816
負債合計	44,051	46,993
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,159	3,159
資本剰余金	15,749	15,749
利益剰余金	59,476	62,465
自己株式	△1,226	△2,726
株主資本合計	77,159	78,648
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,332	1,443
退職給付に係る調整累計額	214	185
その他の包括利益累計額合計	1,546	1,629
純資産合計	78,705	80,277
負債純資産合計	122,756	127,271

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	125,719	132,603
売上原価	88,980	93,793
売上総利益	36,739	38,810
販売費及び一般管理費		
従業員給料	4,961	4,980
雑給	8,923	9,241
役員賞与引当金繰入額	149	168
賞与引当金繰入額	1,820	1,815
退職給付費用	351	342
地代家賃	2,654	2,744
減価償却費	2,322	2,319
のれん償却額	0	0
貸倒引当金繰入額	0	5
その他	10,344	10,986
販売費及び一般管理費合計	31,526	32,603
営業利益	5,212	6,206
営業外収益		
受取利息	19	16
受取配当金	36	43
受取保険金	125	37
その他	75	61
営業外収益合計	256	159
営業外費用		
支払利息	23	24
自己株式取得費用	—	10
その他	0	0
営業外費用合計	24	35
経常利益	5,444	6,331
特別利益		
固定資産売却益	—	4
特別利益合計	—	4
特別損失		
固定資産除却損	7	16
減損損失	29	15
災害による損失	92	—
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	1	—
特別損失合計	130	32
税金等調整前四半期純利益	5,314	6,302
法人税、住民税及び事業税	1,700	1,951
法人税等調整額	30	94
法人税等合計	1,730	2,046
四半期純利益	3,583	4,256
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,583	4,256

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	3,583	4,256
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	195	111
退職給付に係る調整額	△28	△28
その他の包括利益合計	167	82
四半期包括利益	3,750	4,338
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,750	4,338
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,314	6,302
減価償却費	2,477	2,487
減損損失	29	15
のれん償却額	0	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△25	5
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△197	△106
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△246	△238
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△36	—
退職給付に係る資産及び負債の増減額	△56	△10
受取利息及び受取配当金	△55	△60
支払利息	23	24
固定資産売却損益 (△は益)	—	△4
固定資産除却損	7	16
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	0
投資有価証券評価損益 (△は益)	1	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△196	△245
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△466	△369
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,045	3,325
未払又は未収消費税等の増減額	57	225
リース投資資産の増減額 (△は増加)	48	45
その他	△339	354
小計	7,386	11,768
利息及び配当金の受取額	36	43
利息の支払額	△20	△19
法人税等の支払額	△780	△1,801
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>6,622</b>	<b>9,991</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△0	△0
投資有価証券の売却による収入	—	0
有形固定資産の取得による支出	△4,509	△6,208
有形固定資産の売却による収入	—	2
無形固定資産の取得による支出	△219	△218
貸付けによる支出	△2	△0
貸付金の回収による収入	3	3
子会社株式の取得による支出	—	△0
保険積立金の払戻による収入	348	29
敷金及び保証金の純増減額 (△は増加)	△17	△127
その他	△51	△98
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△4,448</b>	<b>△6,619</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	△191	△153
自己株式の取得による支出	△0	△1,510
配当金の支払額	△1,263	△1,264
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,455</b>	<b>△2,928</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	718	442
現金及び現金同等物の期首残高	18,450	19,539
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,168	19,982

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する事項)

当第2四半期連結会計期間（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

重要な異動はありません。

なお、第1四半期連結会計期間において、当社グループ内部の資本構成を見直すとともに経営資源を集約し経営効率の向上を図るため、当社の連結子会社である株式会社フレッセイを吸収合併存続会社、同じく当社の連結子会社である株式会社フレッセイヒューマンズネットを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行っております。本合併による四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

また、当第2四半期連結会計期間において、インターネットを活用した通信販売の強化を図るため、当社の連結子会社である株式会社原信が、有限会社原信ネットオーダー（旧社名 有限会社山本商店）を完全子会社とする株式の取得を行っております。本株式取得による四半期連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

重要な変更はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

該当事項はありません。

(セグメント情報)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客への売上高	125,342	125,342	377	125,719
セグメント間の内部売上高又は振替高	72	72	2,207	2,280
合計	125,415	125,415	2,585	128,000
セグメント利益	4,908	4,908	266	5,175

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客への売上高	132,183	132,183	419	132,603
セグメント間の内部売上高又は振替高	78	78	2,511	2,590
合計	132,262	132,262	2,931	135,193
セグメント利益	5,936	5,936	288	6,225

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

前第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)

前連結会計年度の末日に比して著しい変動はありません。

3 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

利益	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
報告セグメント合計	4,908百万円	5,936百万円
「その他」の区分の利益	266百万円	288百万円
セグメント間取引消去	2百万円	△20百万円
全社費用	△372百万円	△415百万円
その他の調整額	407百万円	417百万円
四半期連結損益計算書の営業利益	5,212百万円	6,206百万円

- (注) 1 セグメント間取引消去は、主にセグメント間の固定資産売買によって生じた未実現利益に係る調整であります。
- 2 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に係るものであります。
- 3 その他調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社（持株会社である当社）に対する経営指導料支払額の消去であります。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

重要な変更等はありません。

なお、当第2四半期連結会計期間において、有限会社原信ネットオーダー（旧社名 有限会社山本商店）の株式を取得し連結子会社としており、同社の事業に係る売上高、利益又は損失、資産、負債、その他の項目の金額をスーパーマーケット事業に含めて表示しております。これによる当第2四半期連結累計期間におけるセグメント情報に与える影響は軽微であります。

5 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

重要な影響を及ぼすものではありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

重要な影響を及ぼすものではありません。

なお、当第2四半期連結会計期間において、有限会社原信ネットオーダー（旧社名 有限会社山本商店）の株式を取得し連結子会社としております。これにより、スーパーマーケット事業において、のれんを0百万円計上しております。

### 3 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 販売実績

(単位 百万円、%)

項目		前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		前年同期比		
		売上高	構成比	売上高	構成比	金額	比率	
ス ー パ ー マ ー ケ ッ ト	生 鮮 食 品	青果	16,436	12.8	17,024	12.6	588	103.6
		精肉	14,413	11.3	15,435	11.4	1,021	107.1
		水産	12,816	10.0	13,529	10.0	712	105.6
		惣菜	13,309	10.4	14,368	10.6	1,058	108.0
	計	56,976	44.5	60,357	44.6	3,380	105.9	
	加 工 食 品	デイリー	26,525	20.8	28,274	20.9	1,749	106.6
		加工食品	32,773	25.6	34,014	25.2	1,241	103.8
		インスタアペーカリー	2,198	1.7	2,538	1.9	339	115.4
	計	61,497	48.1	64,827	48.0	3,330	105.4	
	住居	3,877	3.0	3,901	2.9	24	100.6	
衣料品	43	0.0	42	0.0	△0	98.1		
その他	131	0.1	139	0.1	7	106.1		
営業収入	2,815	2.2	2,914	2.1	99	103.5		
セグメント間の内部売上高又は振替高	72	0.1	78	0.1	5	107.7		
小計	125,415	98.0	132,262	97.8	6,847	105.5		
そ の 他	外部顧客への売上高	377	0.3	419	0.3	42	111.2	
	セグメント間の内部売上高又は振替高	2,207	1.7	2,511	1.9	303	113.8	
	小計	2,585	2.0	2,931	2.2	345	113.4	
合計	128,000	100.0	135,193	100.0	7,193	105.6		

② 仕入実績

(単位 百万円、%)

項目		前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		前年同期比		
		仕入高	構成比	仕入高	構成比	金額	比率	
ス ー パ ー マ ー ケ ッ ト	生 鮮 食 品	青果	12,105	13.5	12,467	13.2	362	103.0
		精肉	11,040	12.3	11,812	12.5	771	107.0
		水産	9,108	10.2	9,478	10.0	370	104.1
		惣菜	7,352	8.2	8,008	8.5	655	108.9
	計	39,607	44.2	41,766	44.2	2,159	105.5	
	加 工 食 品	デイリー	19,054	21.3	20,560	21.7	1,506	107.9
		加工食品	25,138	28.0	25,898	27.4	759	103.0
		インスタアペーカリー	905	1.0	1,025	1.1	120	113.3
	計	45,098	50.3	47,484	50.2	2,385	105.3	
	住居	2,895	3.2	2,936	3.1	40	101.4	
衣料品	31	0.1	27	0.0	△3	87.7		
その他	34	0.0	30	0.0	△3	89.5		
リース原価	47	0.1	47	0.1	0	100.7		
セグメント間の内部仕入高又は振替高	106	0.1	106	0.1	0	100.5		
小計	87,821	98.0	92,401	97.7	4,579	105.2		
そ の 他	外部取引先からの仕入高	1,693	1.9	1,862	2.0	168	110.0	
	セグメント間の内部仕入高又は振替高	130	0.1	319	0.3	189	245.5	
	小計	1,823	2.0	2,181	2.3	357	119.6	
合計	89,644	100.0	94,582	100.0	4,937	105.5		

(注) セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。